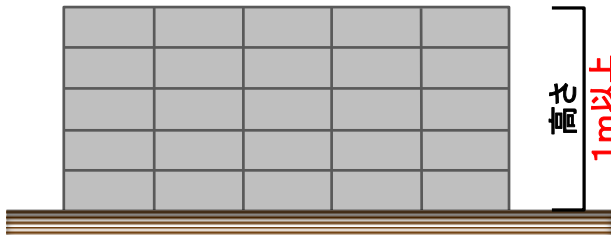


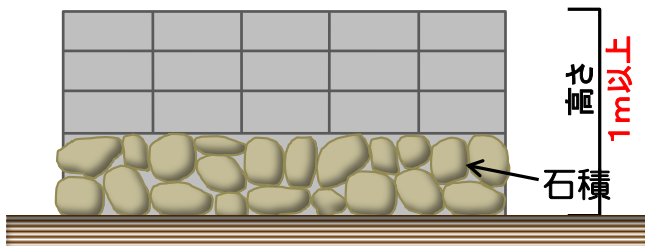
補助の対象となる範囲と基準の説明（その1-正面図）

1) コンクリートブロック造の塀の場合（一般的な塀） （その他に石造やれんが造など）



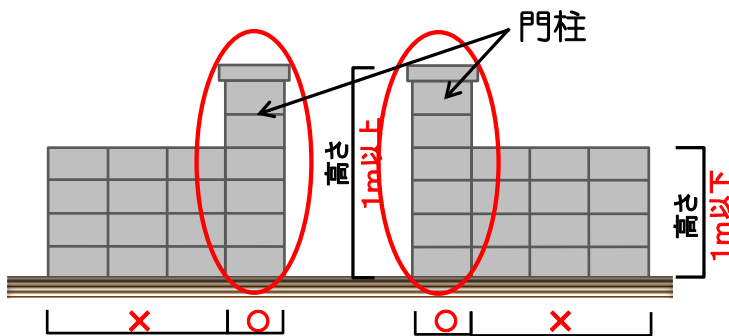
- 塀の高さが1 m以上ある
- 内部に鉄筋がない又は腐食して補強の役をしていない
- 基礎がない又は形状が確認出来ない
- 控え壁がない
- 亀裂、傾き等がある

2) ブロック造の塀の下部が石積などの場合



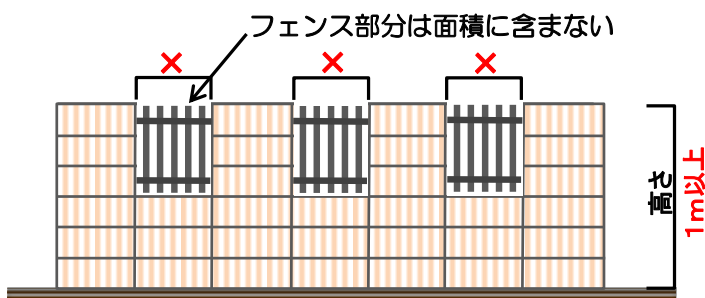
- 塀の高さが全体で1 m以上ある場合
- 基礎部分が石積みになっている

3) 塀に附属の門柱がある場合



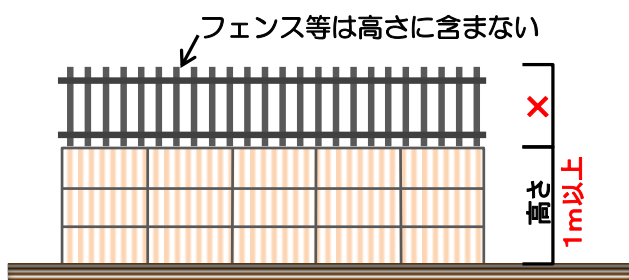
- 門柱の高さが1 m以上ある場合
- 門のみも対象（幅×高さ）の面積で算定

4) ブロック塀の間にフェンス等がある場合



- 塀の高さが全体で1 m以上ある場合
- 塀のあいだにフェンスなどがあるときはブロック積み部分の面積が対象

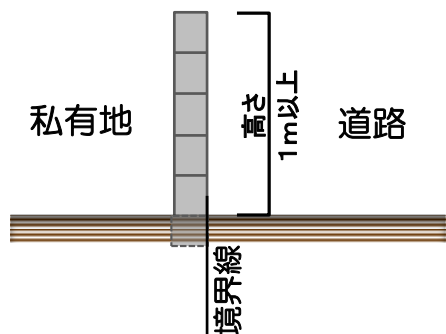
5) ブロック造の塀の上にフェンス等がある場合



- 全体で高さは1 m以上あるがブロック部分が1 m未満の場合は対象外
- 塀の部分が1 m以上あれば対象

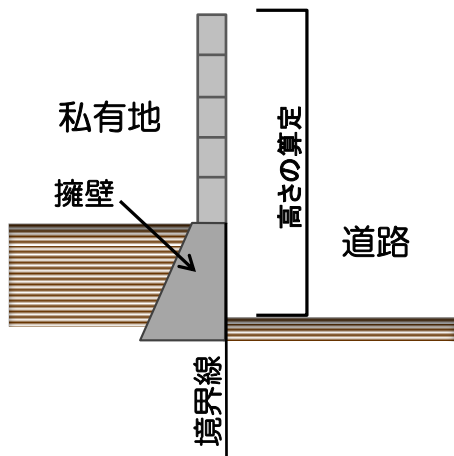
補助の対象となる範囲と基準の説明（その2-断面図）

1) 道路に面している場合（一般的な塀）



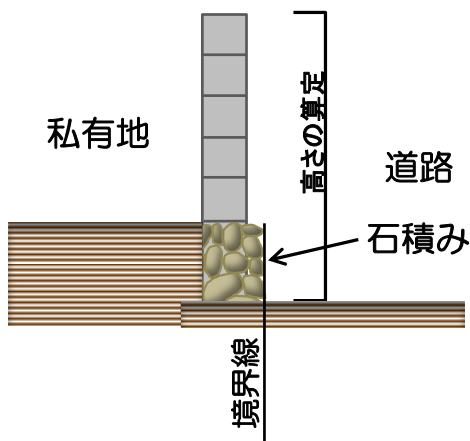
- 高さは道路に接している部分から測定
- 道路に面している

2) 道路に高低差がある場合（個人の擁壁の場合）



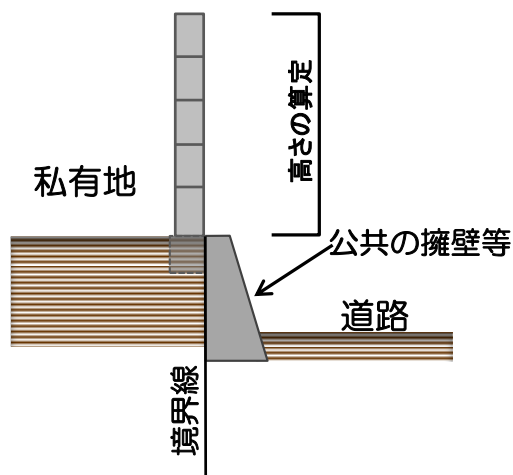
- 高さは道路に接している部分から測定
- 擁壁は個人が築造している（基礎に該当）
- 擁壁の構造が適法であるか検証が必要

3) 道路に高低差がある場合（個人の石積みの場合）



- 高さは道路に接している部分から測定
- 石積みは個人が築造している（基礎）
- 石積みは基礎に該当しないため全体で測定

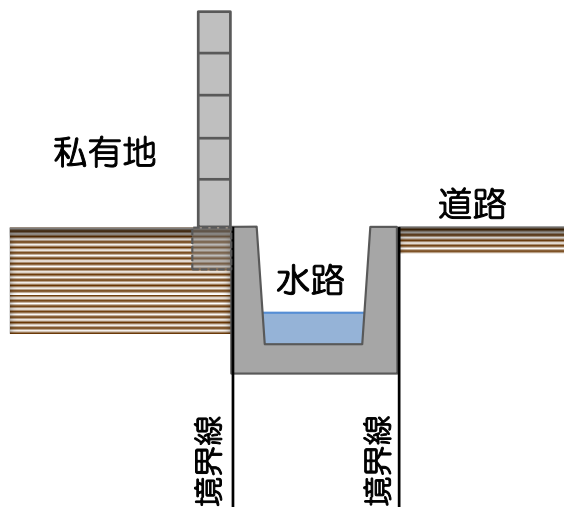
4) 道路に高低差がある場合（公共の擁壁の場合）



- 擁壁は公共の建造物である
- 擁壁の構造が法令に適合していること
- 高さの算定は擁壁天端から測定
- 擁壁が公共建造物でも法令に適合していない場合は、道路より測定

※補助に該当しない例

敷地と道路の間に水路がある場合（道路側溝は除く）



- 水路は公共の水路工作物である
- 水路に蓋がある場合は補助対象に該当
- 高さの算定は水路構造物の天端から測定